

高松・まちづくりふれあいトーク～市民と市長の対話集会～ **第6回会議録**

日 時	平成19年7月23日(月) 午後7時00分～8時30分			
場 所	高松市役所13階大会議室			
出席者 (市)	市長	総務部長	企画財政部長	市民部長
	健康福祉部次長	病院部長	環境部長	産業部次長
	都市整備部長	都市整備部次長	消防局次長	水道局次長
	教育部長	文化部長		
	事務局 8名			
市 民	98名			
概 要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 市長あいさつ</li> <li>3 資料等説明</li> <li>4 意見交換</li> </ol>			
意見交換 市民	<p>市の財政状況について、平成18年度の一般会計では、歳入が1,343億円、うち市の税収は625億円、歳出が1,290億円で50億円余りの黒字とのことあるが、これは現実のものか。そうであるとすると、財政が厳しいのはどうしてか。これまでの借入金がいくらあるのか、きちんと市民に説明をした上で、何を節約するのかといった案を提示する必要がある、それを無視して収支のことを言っても意味がない。そうになると、新しい借金はできないのではないか。</p>			
市長	<p>財政問題について、高松市の一般会計の予算規模は1,350億円ほどで、18年度の決算では実質収支として、黒字が40億円余りある。しかし、借入金収入があるため、黒字だから財政が健全であるとは言えない。また、高松市の借入金は1,600億円ほどあり、今後は借入金よりも返済額を多くすることで、借入残高を減らしながら運営していく必要がある。つまり、マニフェストにも掲げているが、プライマリーバランスの黒字化を継続することで、財政の健全化を図りたい。</p>			
関係部長	<p>年間の借入と返済の額であるが、平成18年度は借入金額が約82億円、返済金額が約185億円となっており、利子込みの金額で100億円ほど返済金額が上回っている。プライマリーバランスの黒字化が借入金の減少に繋がるので、今後とも継続していきたいと考えている。</p>			
市民	<p>水問題について、水不足は深刻な問題で、この度の湯水では、徳島の阿南市が水輸送用バッグによる海上水輸送試験により1,000トンの淡水を輸送したが、高松市ではこのような処置を検討しているのか。</p> <p>また、高松市は全国でも有数の水害多発地であるが、平成10年の相次ぐ豪雨及び台風による被害が全国各地で発生したとき以降、こういった対策をとったか。平成10年に、増水時に水を流して浸水を防ぐための朝日町から松島町までのトンネル工</p>			

市長	<p>事を施工し、平成 18 年末に完成予定であるが、兵庫町商店街にはどのような対策を行ってもらえるのか。中継ポンプは作るのか。</p> <p>また、平成 16 年度に兵庫町商店街は台風 16 号により 50 c m 浸水し、固定資産税が減免されたが、9 月に台風による災害が生じた場合、固定資産税は減免されるのか。</p> <p>高松市は地形的な問題もあり、水がたまりにくく、浸水しやすい状況があるため、日ごろからの対策が重要である。</p> <p>まず、渇水についてであるが、今年だけでなく 2 年前にも渇水になっており、このような状況が頻繁に起こるのは好ましくないため、抜本的な対策を考える必要がある。ただ、今年の場合、合併以前は自己水源と香川用水の依存比率を 5 : 5 まで改善してきたが、合併により市域が拡大したほか、塩江町以外の 5 町については 100% 香川用水依存であったため、全市域では依存比率が 4 : 6 となっている。そのため、早明浦ダムの貯水率が減少すると、市域への影響が大きくなったため、今後はより安定した自己水源を確保し、依存比率を 5 : 5 にしたいと考えている。その方策の一つとして、椋川ダムの建設を進めており、これにより日量 9,000 t が確保できるが、完成が 10 年後になるため、当面は地下水の利用を基本に考えている。なお、県が地下ダムの建設も検討しているので、それらについても積極的に協議し、力を合わせながら自己水源の確保に取り組んでいきたい。</p> <p>次に、洪水・高潮について、これらの災害も抜本的対策が必要なため、公共工事により河川改修、防波堤の高層化、雨水排水整備などの促進により改善したい。</p>
関係部長	<p>中心市街地の浸水対策であるが、海岸から水が入らないように擁壁を築くなど県と協力して対応している。</p> <p>一方、下水道については、中心市街地は雨水と汚水を受ける合流式の管が入っており、浸水被害の大きい松島、築地、花園地区においては口径 3,500mm の雨水バイパス管が埋設済である。また、福岡ポンプ場でポンプの増強を平成 20 年度供用開始予定で進めており、これまで排水処理に問題があった地域についても浸水被害の軽減が図られると考えている。その他、バイパス幹線やポンプ場の整備等について、事業認可を得て事業推進を図りたい。</p>
市長	<p>災害減免については法律上規定があるので、それに基づいて対応したい。</p>
関係部長	<p>災害減免については、法律等に基づき、床上浸水、床下浸水の程度に応じて減免することになるので、平成 16 年度のときと同様の対応になる。</p>
市民	<p>先般の中越沖地震により約 4,000 名の方が避難所生活を余儀なくされている。また、今世紀前半には東南海・南海地震等の大地震が予想されており、その場合、高松では 2 時間後に 1 ~ 2 m の津波が発生するとも言われている。津波は高潮よりも生命への危険性が高く、もし発生すれば避難しなければならない。市が所有している広域の避難場所は小学校、コミュニティセンター、図書館などがあるが、高等学校や大学は開放してもらえないのか。私たちは市民であるとともに県民ではないのか。</p>

<p>市長</p>	<p>二番丁校区は住民が 11,000 名ほどいるが、二番丁小学校には 500 人ほどしか避難できない上、浸水する可能性もある。行政は国民の生命を守る気があるのか。</p> <p>また、浜ノ町は住民が 4,000 名ほどおり、第一次の避難場所が必要ですが、シンボルタワーや市民会館を緊急避難場所に指定できないのか。地域で避難できる場所を確保するように再検討していただきたい。</p> <p>中越沖地震を見ても、亡くなられた方の多くは 1 人暮らしの高齢者で、要援護者リストはあったが、それが機能しなかったことが原因であったため、様々な災害にに応じて適切に対応できるよう準備を進めていきたい。</p> <p>また、行政機関の管轄によってではなく、地域の公共の場といった観点で避難場所等を決定できるように関係機関に働きかけていきたい。</p> <p>今回の提言を受けて、避難場所等を再検討するとともに、災害時に実行性ある計画を考えていきたい。</p>
<p>関係部長</p>	<p>高松市の避難場所は、小中学校やコミュニティセンターなど 197 箇所ある。また、最近では大規模小売店舗と災害時の対応について協定を締結しているが、今後は県の施設についても対応を考えていきたい。</p> <p>また、今年度、避難場所等を記載した防災ハザードマップを作成し、各世帯に配布することを予定している。</p>
<p>市民</p>	<p>私の家の近隣は高校生の通学路で、4 年前から街灯の設置を要望しているが、設置してもらえてない。ここは人身事故等も多いので、ぜひとも設置していただけないか。</p>
<p>市長</p>	<p>学校近辺の子どもの安全・安心や交通安全などの観点から、防犯対策を充実することは重要だと思う。ただ、いろいろな要望が寄せられる中で、優先順位をつけて順次対応している状況である。</p>
<p>関係部長</p>	<p>後ほど具体的な場所をお伺いした上で、対応を考えたい。</p>
<p>市民</p>	<p>木太鬼無線道路について、数年前に当初の計画から変更された理由とその周辺の環境の変化について御説明いただきたい。また、切通しの道路は市が管理を行っているのか。</p>
<p>関係部次長</p>	<p>木太鬼無線道路の整備についてであるが、現在着手しており、用地買収等を進めている。工区は西春日工区からトンネルを抜けて鶴市工区までの 2 km 区間を計画しており、用地買収の進捗状況は西春日工区が 99% である。また、鶴市工区は約 70% の用地買収が完了している。道路工事や排水計画、上水道の整備などについては、工事着手前に工区および周辺の方に説明会を開催することとしている。なお、事前に具体的な内容を知りたい方には個別に対応したい。</p> <p>また、計画変更についてであるが、ボーリング調査により岩盤が弱いことが判明したので、一部計画を変更している。</p>

市民	<p>なお，切通しの道路は市道である。</p> <p>高齢者の増加に伴い，自分がどこに行くのかわからない高齢者も増加しているため，高齢者に連絡先や血液型，通院している病院などを記載している名札を配布してはどうか。</p>
市長	<p>高齢化社会が進展する中で，高齢者が住みよいまちづくりをすることは重要であるが，困っている高齢者がいるときに，周りの方が声をかけたり，相談に乗れたりする地域社会づくりが大切だと考えている。</p> <p>また，住民基本台帳カードに様々な情報を入れる試みがされており，名札をつけること自体は個人の任意になるが，住基カードで代用できるシステム構築を検討したい。</p>
市民	<p>小学校の統合について，国の指導を経て実施しているとのことであるが，不便を感じている市民がたくさんいる。四番丁小学校においては，3年前に統合の話が出てきたときに，21世紀の子どもを育成するために新しい箱物を作りたいとのことであった。しかし，高松市の小学校を耐震診断したときのデータは捏造されている。</p> <p>地域社会の基本は小学校である。それぞれの小学校には歴史がある。しかし，データ捏造によって，心のふるさとである小学校を統合し，地域社会を壊している。</p> <p>議会の承認事項を変更することは難しいが，市長の権限で中止することもできるので，小学校の統合を再検討していただきたい。</p>
市長	<p>小学校の統合について，平成12年ごろから始まり，全国的な少子化により，学校のあり方がそれぞれの地域で問われている。本市の中心部の小学校においては，校舎の老朽化や児童数の減少に対応するために，いろいろな方々の意見を取り入れながら検討しており，松島，築地，新塩屋町小学校の統合，光洋と城内中学校の統合，日新，二番丁，四番丁小学校の統合といった方向性が出され，それらの整備に向けて設計等の事業が進められている。</p> <p>この間，様々な議論がなされて，議会なり住民に諮りながらここまで進んできているということであるが，もう一度，私自身，きちっと現状として見させていただきたいと思うが，そういう過程でここまで来ているので，そういう方向で進めていきたい。</p>
関係部長	<p>反対がある中での統合ということ念頭に上，誠心誠意取り組んでいる。今後とも地元の新しい学校づくり協議会において意見を聞く中で，新しい学校が地域にとってすばらしいものになるよう，地元や学校当局，教育委員会で一緒に考えていきたい。御意見等ございましたら，協議会を公開しているので，そちらに御参加いただきたい。</p>
市民	<p>兵庫町西通町線の道路計画について，当初の予定では全長780mであったが，平成16年に150mに縮小されている。この道路拡張については，時間がかかりすぎていると思うが，いつ完成するのか。</p>

<p>関係部次長</p>	<p>また、当初計画では道路幅員が22mであったが、現在の計画では15mとなっている。現在の幅員は6mであり、幅員の異なる交差点のところでは交通事故が多発しているほか、火災時に消防車が入りにくい状況であるので、早期の完成を望んでいる。</p> <p>事業認可区間は480mあるが、早期整備のため、東側から150mを先行して整備しており、北側については、ほぼ完成しているが、南側については、まだ2件ほど交渉中である。</p> <p>また、交差点については、現在カーブミラーを設置しているが、地元の要望や警察と協議の中で、危険であるため、今年度予算において交差点付近の交渉を進め、市としても早期に整備をしたいと思っている。</p>
<p>市民</p>	<p>総合計画について、現在の総合計画が承認されているのに、その期間中に変更することはできるのか。また、現在の総合計画との整合性または相違点はあるのか。</p> <p>また、インターネットで見ると、市長のひとりごとが前市長のものでしたので、変更したほうがいいのではないか。</p>
<p>市長</p>	<p>総合計画については、法律に基づき議会の議決を経て作成することとなっているが、国の承認は必要ではなく、また一度承認すると変更できないものでもない。その都度、見直しをして、議会の議決を経れば変更することはできる。</p> <p>また、ホームページの市長のひとりごとについて、5月以降については全て変更して私の活動記録や記者会見を載せているので、見られたものは前市長のデータが残っていたものと思われる。</p>
<p>関係部長</p>	<p>現行の総合計画と新しい総合計画の相違点ですが、合併により、人口が33万人から42万人に、面積が194k㎡から375k㎡になるなど、高松市の状況が大きく変わっている。そのため、これらに対応できる計画にする必要があり、合併町のことも含めた高松市の総合計画の見直しを行うこととしている。</p>